

管内における取組事例 (平成19年12月28日現在)

県名	経営形態	作物名	面積	GAP名	取引先	導入理由	導入時の苦労した内容	成果	課題
熊本県	有限会社 松本農園	にんじん たまねぎ だいこん ごぼう等	4.0 ha	グローバルGAP	量販店 中央卸売市場 タイ 香港 EU	取引先からの要請 作業の効率化 労働者保護 農産物の安全性の確保 輸出	認証基準の理解 作業内容の記録方法	国際的な評価 取引先の拡大	認証費用
大分県	有限会社 育葉産業	みつば	施設 0.7 ha	JGAP	量販店 青果市場	農産物の安全・安心の確保	作業点検マニュアル作成 作業内容の記録方法 農薬ドリフト対策	作業マニュアル作成による作業の安全性の確保、環境対策、コスト意識の見直し 従業員との問題意識の共有化	残留農薬検査 作業点検マニュアルの見直し
宮崎県	有限会社 新福果	キャベツ ごぼう さといも にんじん かんしょ ばれいしょ らっきょ たまねぎ	9.0 ha	JGAP	量販店 外食産業	農産物の安全・安心の確保 輸出 ブランド化	GAPは経営全体を対象としており、トレサビよりも対応が難しかった 認定審査の指摘事項への対応	社内の労働環境の改善 農薬散布への細かな対応 作業マニュアルの認識からの労災の減少 詳細な作業分析や農薬・肥料の管理が的確になった	毎日の集計作業時間が増えた 経費に見合う収益の増加がない ドリフト対策経費の増加 集荷場の清掃時間の増加 農産物の出荷調整時間の増加 雇用環境の整備
福岡県	朝倉物産株式会社	ねぎ	1.6 ha	グローバルGAP	百貨店 量販店 外食産業	農業生産に記録・統計分析の必要性 世界標準のGAP取得	従業員に対するGAP取組教育	販売先の拡大による経営の安定 記録を利用した生産レベルの向上 従業員の意識変化	雇用環境の整備
福岡県	JA筑前あさくら トマト部会 (19名)	トマト	5.8 ha	福岡県版GAP	青果市場	農産物の安全・安心の確保	部会員の意思統一	意識の変化	チェックリストの提出 生産量の向上
熊本県	(名称) 球磨川GAP 生産者グループ			JGAP	量販店 農協 青果市場	GAP手法を取り入れた安全・安心な農産物を供給できる生産体制を確立し、農家の収入増を目指す。	GAP手法の理解 農場整理 記帳	農場リスクを意識するようになった。 整理整頓(農場・農薬・肥料)ができ効率的になった。 誰でもわかる作業記録ができた。	グループを増やし、GAP農産物取扱量の増加 安定的な出荷先の確保 団体としての農場管理マニュアルの作成
	中村嘉夫	小ねぎ	0.2 ha						
	樫木徹郎	ミディトマト	0.3 ha						
	福本王雅	メロン いちご	3.1 ha						
	那須健助	メロン アスパラガス	2.3 ha						
	星原一彦	スナップエンドウ	0.1 ha						
	梅山剛生	スナップエンドウ きゅうり	0.4 ha						